

# エンジニア向け AI駆動開発研修

全8回 × 各8時間 = 64時間 (2ヶ月)

ゴール：Issue駆動開発を独力で回せる

## 本研修のゴール

受講者が、実務プロジェクトで「Issue駆動開発」を独力で1サイクル回せるようになる。

- 構造化Issue（概要／現状／期待動作／受け入れ条件）を書ける
- Issueを起点に 方針提案 → ゲートレビュー → 実装 → 動作確認 → PR作成 を回せる
- **CLAUDE.md**・**MCP**・**サブエージェント** でClaude Codeを最適化できる
- **Git Worktree** で複数Issueを並列に進められる
- 属人化しない・追跡できるチーム開発を実践できる

## 設計方針

- **インプット最小・実践最大**：講義は各回最大2h、残り6hは全てワークショップ
- 毎回 **「翌日から使える成果物」** を完成
- 全ワークは **受講者自身の実務課題**（または擬似案件リポジトリ）を使用
- メインツールは **Claude Code**、プラットフォームは **GitHub**

## 全体ロードマップ（4フェーズ × 8回）

Phase	回	テーマ
0 下地	1	AI駆動開発の全体像 + 環境セットアップ
	2	Claude Code基礎操作
1 Git連携	3	Git/GitHub × Claude Code
2 環境整備	4	CLAUDE.md（コンテキスト設計）
	5	サブエージェント / MCP / カスタムコマンド
	6	Git Worktree × 複数エージェント
3 Issue駆動	7	Issue駆動開発① 設計とゲートレビュー
	8	Issue駆動開発② 一気通貫 + 卒業制作

## 1回あたりの構成

各回 8時間：

- **講義（最大2h）**：重要ポイントを凝縮（インプット）
- **ワークショップ（6h）**：実務課題に取り組み、成果物を完成
- **OJT課題**：次回までに実務で実践



## それでは第1回へ

修了時：Issueを書けばAIが実装し、人は判断とレビューに集中。  
**1人で3人分**の生産性を、具体的スキルとして体得した状態へ。